



エントランスライト EJ-14型

取付説明書

保管用

お客様へ

器具の施工には電気工事士の資格が必要です。必ず工事店、電器店に依頼してください。

工事店様へ

施工の前によくお読みのうえ、正しく施工してください。この説明書は必ずお客様にお渡しください。



上手に使って上手に節電

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産への損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を、次の図表示で説明しています。



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



警告

■器具の取り付けは説明書に従い確実にを行う



取り付けに不備があると、火災・感電・落下によるけがのおそれがあります

必ず守る

■土壌のしっかりしたところに設置する



設置に不備があると、ポール倒れのおそれがあります。

必ず守る

■交流100ボルトで使用する



過電圧を加えると過熱し、火災・感電のおそれがあります。

必ず守る

■電源線と口出し線の接続は確実にを行う

スリーブなどで確実に接続し、自己融着テープ、絶縁テープで確実に絶縁・防水処理を施してください。
(内線規程1335-7~9に準ずる)
不備があると、火災・感電のおそれがあります。

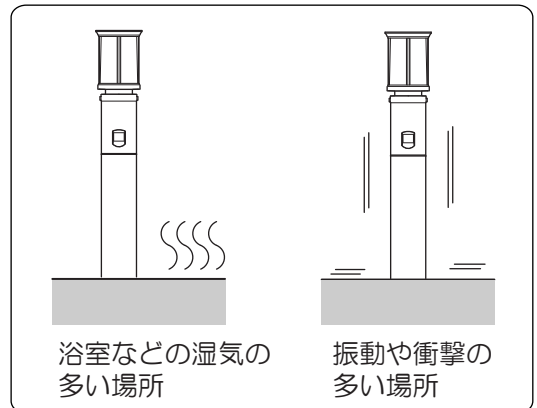
必ず守る

■次のような場所に取り付けない



禁止

指定場所以外に取り付けると、火災・感電・落下によるけがのおそれがあります。



●この器具は防雨型・ポール取付専用です。

■接地工事は、電気設備の技術基準に従って確実にを行う

アース線
接続

接地が不完全な場合、感電のおそれがあります。

⚠ 注意

■ 温度の高温になるものの近くに取り付けない



禁止

ガス機器やその排気筒の近くに取り付け
ないでください。
火災の原因となることがあります。

■ 他の調光器と組み合わせて使用しない



禁止

調光機能が付いた壁スイッチなどと
組み合わせて使用すると火災の原因となる
ことがあります。
●調光器の取り外しが必要です。

施工前にお読みください

設置場所についてのご注意

● 次のような場所には取り付けないでください。

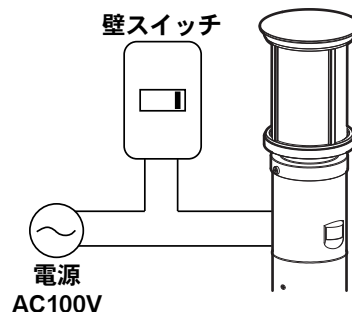
この器具は、周囲の明るさと温度変化をセンサで検知して動作するため、以下のような場所に
取り付けると誤動作の原因となります。

大理石など反射の 強い床面のある場所 禁止	風などでよくゆれる 植物の近くなど 禁止	エアコンの吹き出し 口、換気扇の近く 禁止
交通量の多い道路 に面した場所 禁止	前面に障害物のある場所 (透明なガラスも含む) 禁止	昼間でも暗い所や 夜間でも明るい場所 禁止

●一般屋外仕様ですので、海岸隣接地帯では、塩害により短期間で錆が発生するおそれがあります。

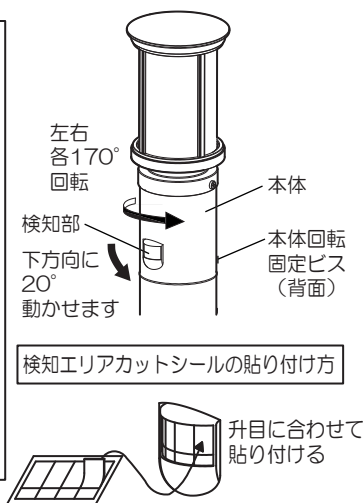
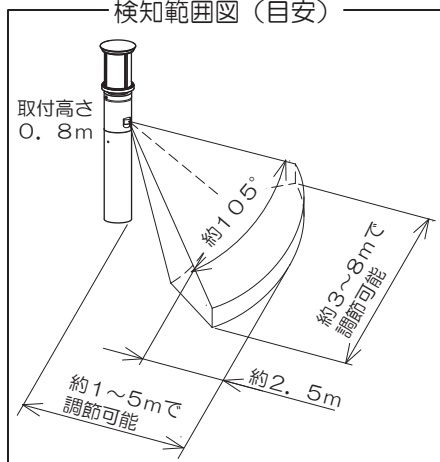
配線についてのご注意

- 必ず壁スイッチを設けてご使用ください。(スイッチは別途ご用意ください)
 - ・連続点灯への切り替え操作ができません。
 - ・センサによる点灯モードに異常が発生したとき、リセットできません。
- 壁スイッチは器具1台につき1個設置してください。複数台を1個のスイッチに
配線すると、点灯状態にバツキが発生するおそれがあります。
- 壁スイッチにパイロットスイッチを使用すると、壁スイッチがONの状態でも
照明器具が消灯状態(センサ待機状態)のときは、パイロットスイッチ表示が
点灯しない場合があります。(故障ではありません)
- 通常は壁スイッチをONにした状態でご使用ください。



センサの検知範囲

検知範囲図(目安)



ご注意

- この器具のセンサは、熱源の温度変化を動きとして
とらえます。そのため、動物、自動車など人以外の
動きも検知して照明が点灯する場合があります。
また、静止状態の人などは検知しない場合があります。
- 検知範囲は気温、服装、移動速度、進入方向、体温、
器具の取り付け高さや傾きなどにより変化します。
- 夏場など、気温が体温に近い状態になると、温度変化
が小さいため検知しない場合があります。
- センサの性能上、器具に向かってまっすぐ近づいた
場合、器具の近くまで近づかないと検知しないこと
がありますが、器具の故障ではありません。

この器具は取り付け後、ご使用の環境に合わせてセンサの検知範囲、調整ツマミの設定が必要です。
必ず、「検知範囲と調整ツマミを設定する」をお読みのうえ、設定してください。

各部のなまえと取り付けかた **△ 注意** 器具取り付けの際は、安全のため電源を切ってください。 通電状態で行うと感電の原因となることがあります。

1 ポールを建てる

- ポールの説明書は、別途ポールに添付しております。必ずご参照ください。

△ 注意

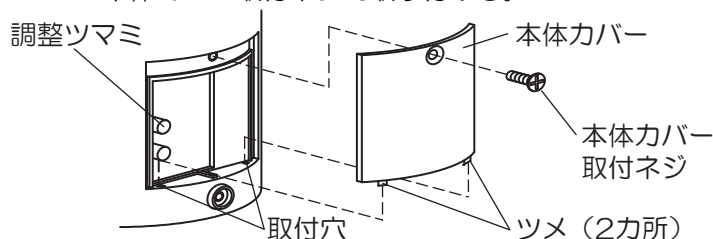


土中埋設配線は
「内線規程2400節地中電線路」、
「JIS C 3653 電力用ケーブルの
地中埋設の施工方法」に従う。
不備があると、絶縁劣化により、感電、
故障の原因となることがあります。

7 本体カバーを取り付ける

本体カバーの取り付け方

- ・ ツメ（2カ所）を本体の取付穴に差し込み
本体カバー取付ネジで取り付ける。

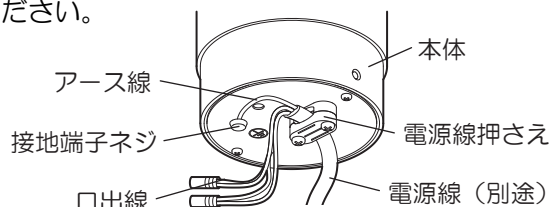


△ 注意

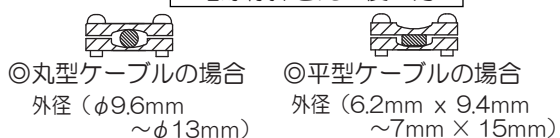
- **本体カバーは必ず取り付けて使用する**
浸水による感電や故障の原因となることがあります。

2 □出線に 電源線を接続する

- 電源線は、ケーブルのシース部を電源線押さえで
しっかり固定してください。
ケーブルの押さえ量はケーブル外径の1/4程度と
してください。
- **押さえ込みすぎると絶縁破壊の原因となります。**
- 接地端子ネジからD種（第3種）接地工事を行って
ください。



電源線押さえの使い方



※（梱包時は丸型ケーブル止めの状態になっています。）

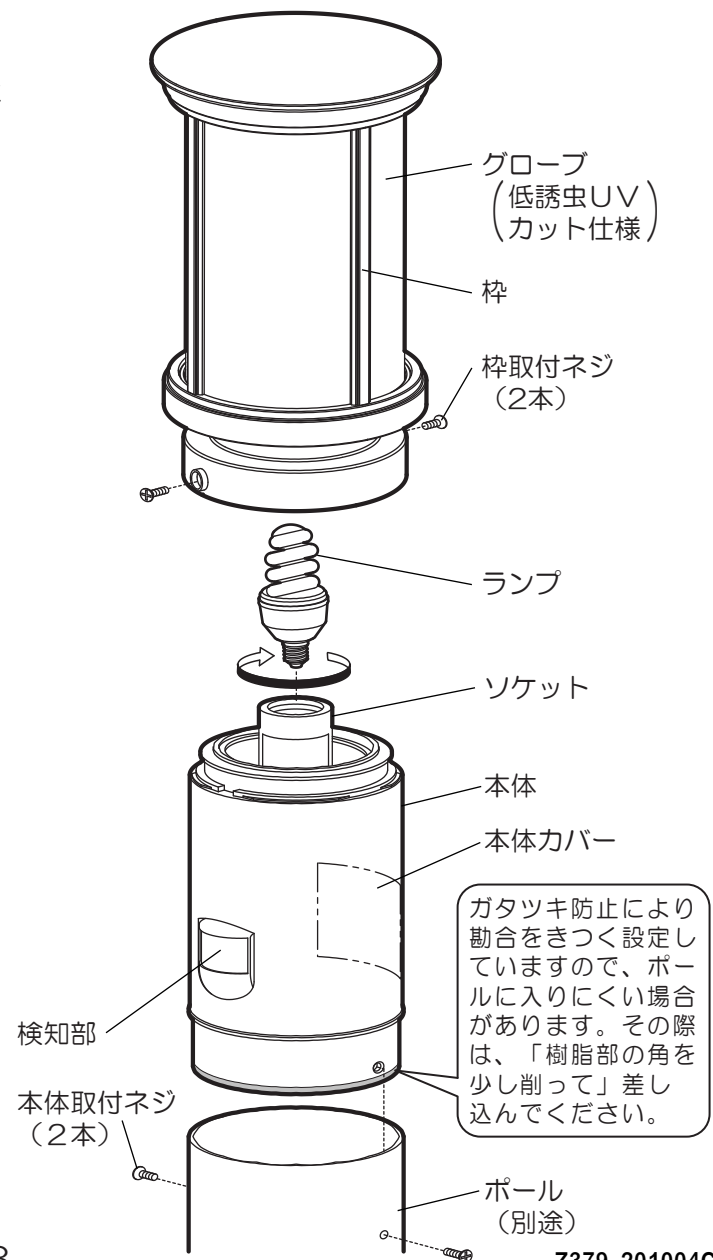
3 本体取付ネジ（2本）で 本体をポールに取り付ける

線のかみ込みにご注意ください。
感電や漏電の原因となります。
**取り付けが不完全な場合、感電・落下による
けがの原因となります。**

4 枠取付ネジ（2本）をゆるめて枠を取り外し、 ソケットに ランプを取り付ける

5 枠取付ネジ（2本）を締め付けて 枠を取り付ける

6 本体カバーを取り外して 検知範囲と調整ツマミを設定する （次ページ参照）



検知範囲と調整ツマミを設定する

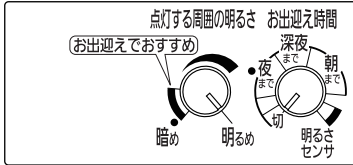
昼間でも設定できます。

- 設定の前に ①壁スイッチをOFFにする
②本体カバーを取り外す

1 センサの検知範囲を調整し、点灯確認をする 出荷時の設定

[手順]

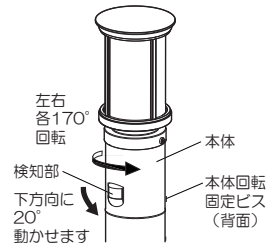
①あらかじめ、調整ツマミを以下の設定にする



点灯する周囲の明るさ——「明るめ」（右いっぱいには回す）
お出迎え時間——「切」（左いっぱいには回す）

②本体（検知部）を回転させ、設置場所に合わせて検知範囲を調整する

- 器具背面の本体回転固定ビスをゆるめ、本体（検知部）を回転させ、現場に合った検知範囲を設定してください。
- 検知部を下方に可動させることにより、検知範囲を段階的に調整することができます。
- センサの検知範囲は、 2ページ「センサの検知範囲」を参照ください。
- 不要な検知範囲の調整は、同梱の検知エリアカットシールを検知部に貼り付けて行ってください。



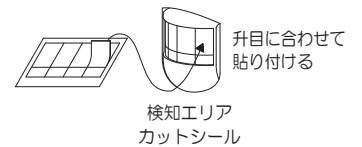
③壁スイッチをONにし、センサの検知範囲の外に出る

→ 約40秒間点灯してから消灯します。

消灯しない場合は、以下の原因が考えられます。

- お出迎え時間が「切」になっていない → お出迎え時間を「切」にする
- センサの検知範囲に入っている → センサの検知範囲から外に出る
- 連続点灯になっている → 壁スイッチを一度OFFにし、5秒以上おいて再び壁スイッチをONにする

検知エリアカットシールの貼り付け方



④消灯したら器具に近づいて、点灯することを確認する

- センサの検知範囲の外に出た後約5秒後に消灯します。

2 いったん壁スイッチをOFFにして 使いかたに合わせて調整ツマミを設定する

以下の3種類の使い方ができます。（詳しくは 取扱説明書3ページ）

使いかた	お出迎えモード	ON / OFFモード	明るさセンサモード
動作	暗くなったら点灯 設定時刻になると消灯 設定時刻以降は人が近づいたときに点灯	暗くなって、人が近づいたときに点灯	暗くなったら点灯 明るくなったら消灯
おすすめの ツマミ設定			
詳しい 設定方法	取扱説明書4ページ	取扱説明書5ページ	取扱説明書6ページ

3 本体カバーを取り付ける

3ページ「各部のなまえと取り付けかた」参照

4 壁スイッチをONにする

→ スイッチONにした直後は周囲の明るさに関係なく、約40秒間点灯します。

ご注意●お出迎えモードに設定した場合

壁スイッチをONにした初日は、手順2で設定した「お出迎え時間」ツマミの位置に関係なくお出迎え点灯は約4時間で終了します。翌日より設定した時刻通り終了します。

取説コード

Z379